

丹沢大山自然再生活動報告会

～人も自然もいきいき丹沢～

報告書

平成25年2月2日(土)



丹沢大山自然再生委員会



目 次

1	概要	1
2	報告会の流れ	2
3	発表内容<要旨>	
	(1) 秦野市の里山保全再生の取組み	6
	(2) 名古屋里山を守る会の活動	7
	(3) NPO法人伊勢原森林里山研究会の取組み	8
	(4) NPO法人かながわ森林インストラクターの会の活動について	9
4	ディスカッションの概要	11
5	まとめ	13
6	発表内容<発表資料>	15
7	配付資料	
	(1) プログラム	46
	(2) ポスター	48

1 概要

(1) 報告会の目的

「地域主体の取組み」をテーマとして、市町村や関連する団体の活動など、丹沢大山の自然再生に向けた様々な主体の取組みを報告し、今後の活動展開や団体間の連携・協働などについて意見交換を行いました。

(2) 主催：丹沢大山自然再生委員会

共催：神奈川県自然環境保全センター

(3) 日時

平成 25 年 2 月 2 日(土)13:30～16:30

(4) 会場

秦野市立本町公民館 大会議室

(5) 参加者

① 一般参加者：85 名

② 発表、挨拶、講評者：7 名

- ・丹沢大山自然再生委員会
- ・秦野市
- ・名古木里山を守る会
- ・NPO 法人伊勢原森林里山研究会
- ・NPO 法人かながわ森林インストラクターの会
- ・NPO 法人丹沢自然保護協会

③ 運営スタッフ：18 名

- ・丹沢大山自然再生委員会
- ・NPO 法人丹沢自然保護協会
- ・(公財) かながわトラストみどり財団
- ・神奈川県自然環境保全センター
- ・秦野市

2 報告会の流れ

開会のあいさつ 13:30～13:45

丹沢大山自然再生委員会 委員長 木平 勇吉

鬱蒼とした暗く深い奥山、賑わう暮らしと豊かな里山が特徴的であった昔の丹沢が、昨今、ブナ枯れ、シカの増加、雑踏する登山道、荒れる人工林、土壌の流出などの問題を抱える中、今日、行政や市民ボランティアの取り組みによって、丹沢に回復の兆しが見えてきた。今回の報告会で行政、市民ボランティアの活動発表や会場の皆様との意見交換を行いたいとの挨拶をいただきました。



活動報告

(1) 秦野市の里山保全再生の取組み 13:45～14:10

秦野市 環境産業部森林づくり課 課長補佐 関野 勉

秦野市の概要から始まり、里山保全再生事業を取り組む背景と取り組み内容、今後の展開についてご説明いただきました。取り組みには市による直接的整備と地元住民を中心とした保全団体による整備に分けられますが、秦野らしい里山を目指して市民、地元住民、関係機関とが一緒になって考え、取り組みを進めていきたいとお考えが説明されました。



(2) 名古屋里山を守る会の活動 14:10～14:35

名古屋里山を守る会 代表 関野 勝政

葉たばこ生産が終わった頃からクヌギ、ナラの利用も年々薄れ、里山が荒れ出し、昔の里山を再生したいとの思いから会を発足された経緯についての説明がありました。また、行政と里山の関わり、畑で土地の所有者と一緒にやる援助農業についての話をいただきました。他に活動としての講習会、苗木栽培や余木を利用した栽培等についてのご説明をいただきました。



(3) NPO 法人伊勢原森林里山研究会の取組み 14:35~15:00

NPO 法人伊勢原森林里山研究会

理事長 山口 寿則

人工林や竹林の間伐、そこから生まれた間伐材や竹材を有効利用した森林環境保全活動、放棄された耕地での稲作（古代米）、畑作（蕎麦、大豆）等の栽培等についての取組みが紹介されました。また、継続中の研究機関と連携しての調査研究活動についてもご説明いただきました。

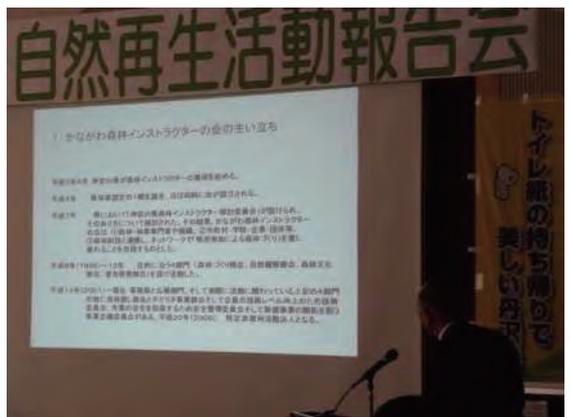


(4) NPO 法人かながわ森林インストラクターの会の活動について 15:00~15:25

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

理事長 久保 重明

森林インストラクターの会の生い立ち、活動実績についてご説明いただきました。その活動はやどりき水源林をベースに、県内各地にわたり、下刈、間伐、除伐・枝打ち、竹林整備などに参加し、技術指導や安全管理を担当するなど、多種多様な活動に対応している姿が紹介されました。



ディスカッション 15:40～16:20

- ・ 発表者の今後に向けた意見交換
- ・ 会場からいただいた質問に対する回答
- ・ まとめ

【パネリスト】

秦野市 環境産業部森林づくり課 課長補佐 関野 勉

名古屋里山を守る会 代表 関野 勝政

NPO 法人伊勢原森林里山研究会 理事長 山口 寿則

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会 理事長 久保 重明

丹沢大山自然再生委員会 委員長 木平 勇吉

【進行役】

NPO 法人自然塾丹沢ドン会 理事 片桐 務



- ・ まとめ 丹沢大山自然再生委員会 県民事業専門部会長 中村 道也



会場の様子



会場設営



リハーサル



受付



司会



パネル展示



会場の様子



3 発表内容＜要旨＞

(1) 秦野市の里山保全再生の取組み

秦野市 環境産業部森林づくり課 課長補佐 関野 勉

1 秦野市の概要

昭和30年1月1日に市制施行し、今年で58年目を迎えています。人口は約17万人で、面積は103.61km²、うち総面積の約53%を森林が占め、神奈川県唯一の盆地となっています。

2 里山保全再生事業を取り組む背景と取組み内容

里山保全再生を取り組む背景として、秦野市の3つの地域特性「丹沢の自然」、「豊かな森林が蓄える地下水」、「農業と自然との関わり」があり、このような背景のもとに里山エリアを秦野市が中心となって保全整備を進めています。

取組み内容としまして、「市による直接的整備」と地元住民を中心した「保全団体による整備」に分けられます。

直接的整備として、「ふるさと里山整備事業」、保全団体による整備としては、全市民向けの「市民による森林づくり事業」、将来里山の活動を希望する方の「ボランティア養成事業」、さらに実際の保全活動の支援である「里山ふれあいの森林づくり事業」のおおまかに3つの事業を実施しています。

「ふるさと里山整備事業」は、市と里山所有者が協約を結び市が業者に委託して実施し、「市民による森林づくり事業」は、平成23年度から市民の森林・里山の循環及び保全に対する理解を深めることを目的として、植樹・育樹・木を活用する活樹の事業を実施しています。

保全団体の活動を支援する「里山ふれあいの森林づくり事業」では、30を超える団体の皆さんの手で整備が進められています。

3 今後の展開

秦野市では、直接的整備と保全団体による整備の大きく2つの手法を核として整備を進めていますが、新たな里山の活用により活力ある秦野らしい里山を目指して、市民、地元住民、関係機関と一緒に、里山について考え、今の時代にあった新たな主体や利用方法を模索し、これからも、秦野らしいにぎわいのある里山をめざし、取組みを進めていきたいと考えています。

(2) 名古木里山を守る会の活動

名古木里山を守る会 代表 関野 勝政

かつて「たばこ」の産地だった秦野も昭和 60 年ごろを最後に生産が終わり、それに伴い「クヌギ」「ナラ」の薪、落ち葉等の利用が薄れ、木の活性もなくなり、山の形態がガラリと変わり、特に下草には笹竹が里山全体に広がってきました。

子どもも大人も楽しめる昔の里山を再生したいという思いから、有志で平成 14 年 9 月に『名古木里山を守る会』を発足致しました。現在は秦野市からの交付金で運営しています。

行政と里山との関わりでは、神奈川県『里山支援モデル事業』に参加、平成 16 年に名古木地区が指定され、平成 16～18 年に『里山作り県モデル事業』、平成 19、20 年に『里地里山専門委員会』が設立されました。土地の所有者とは『秦野市ふれあいの森づくり事業』協定を締結しまして個人の山林（里山）を整備したり、畑（里地）で一緒に農業をするため、『神奈川県里地里山保全・再生及び活用の促進に関する条例』を作ってください、援助農業をしております。神奈川県と秦野市で調整し、平成 20 年 4 月 1 日から土地所有者と活動団体で『里地里山活動協定』を結んでおります。

会員内訳は現在 56 名（男性 48 名、女性 8 名）、地元会員が 30 名、市内が 16 名、市外が 10 名です。地元会員は多いのですが、殆どが土地所有者で自分の山を整備している為、実際に作業するのは名古木から外れている方、市外の方という状況です。

活動面積は里山については 4.6ha（個人の山林）、里地につきましては 1.47ha（田、畑、果実園）を整備しています。竹林整備もしており、2.5 a 分の真竹のみを炭焼小屋で竹炭にしております。

作業内容は林内整備としまして、現在は林道内の水路作り、里山整備、苗木栽培、笹竹の刈り取り等、竹林の整備、その他の活動としましては、鎌、刈払機、チェーンソーの講習、「コナラ」「ナラ」のどんぐりから苗木を育て山に戻す活動、援助農業として休耕田を活用して普通米（キヌヒカリ）ともち米を栽培し、間伐材を利用してシイタケ、ヒラタケ、ナメコ等の栽培、炭焼きも行っております。

里山整備の今後の展望ですが、地元の方々の参加が一番ネックです。自分の山や畑が荒れている中、他の方の山などを整備することはできませんので、これを何とか改善できる方法を現在も模索中です。他には共有林の整備をする必要がありますが、財産区の関係もあり、なかなかうまくいっていません。手が入らないので野生動物の住処になっており、鳥獣被害防止の対策を行っていく必要があろうかと思えます。里山を整備したところでは、貴重な植物の盗掘への懸念もあります。

(3) NPO 法人伊勢原森林里山研究会の取組み

NPO 法人伊勢原森林里山研究会 理事長 山口 寿則

最初の活動は里山の再生からでしたが、人工林の荒廃が危険な状態であることが目に付き出し、第一に森林の再生を考え始めました。活動をするうちに、森林だけで物事は考えられず、里地、人々、地域全体についても考えていかなければ森林の再生もままならないことに気づき、活動を始めました。

伊勢原の森林でも人工林、野地林、竹林の荒廃、獣害では農作物や森林の下層植生等への被害、地域の耕作地も減少している傾向にあります。集落では農林業従事者が減少、高齢化、核家族化しており、地域コミュニティーも崩壊寸前という印象を持っています。そこで農水省の事業に応募して補助金を得て、NPO、地元の自治会、伊勢原市、大学の研究者等でふるさとづくり計画を立ち上げました。事業仕分けのために補助金による計画中止に追い込まれましたが、諦めずに今後も続けていきたいと思っています。いずれにしても活動団体一つでは物事が進みませんので、様々な主体によるパートナーシップということが一つのキーワードになるかと考えています。

実際には、専門家により選木した間伐、竹藪の剪定、植樹、稲作（古代米）、畑作（蕎麦・大豆）等の活動をしています。そこで得られた資源は、竹チップと鶏糞を混ぜた竹堆肥作りや炭焼き、間伐材で農器具小屋や被災地に集会所を建設等、有効利用しました。今後は森林を中心とした保全再生、農地、野生動物との緊張的共生の模索等の活動や、地域の経済活性化と地域文化にスポットを当てながら活動を展開していきたいと思っています。

この他に、間伐した後の光環境や下層植生の変化に関する研究を日本大学と連携して行っています。対象地は伊勢原市日向にある石雲寺の南側の 2.31 ヘクタールの北側斜面で、調査方法は間伐をしないところ、25%、33%のところの3つのプロットに分け、防護柵で囲いました。結果として、殆どなかった植生が復活しましたので、有効だとおわかりいただけるかと思います。研究は今後も継続していきます。

(4) NPO 法人かながわ森林インストラクターの会の活動について

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会 理事長 久保 重明

1 生い立ち

平成 2 年に養成が開始された神奈川県インストラクターで組織され、平成 4 年に発足しました。県からは、林業の専門家、市町村、学校、振興財団と連携して、県民参加による森林づくりを推進することを目指して課題が与えられました。平成 8 年～12 年の間は 4 つの部会を設けて活動していました。その後さらに発展し、平成 13 年から、事業部門に 6 部会、事業企画、安全／危機管理をする検討委員会などを作って現在に至っています。平成 20 年に特定非営利活動法人（NPO 法人）に認定されました。

2 活動実績

年間 140 件ほどの派遣依頼があり、派遣人数は平成 11 年～23 年まで段々と上がってきております。

平成 13 年は千年の森推進事業、平成 19 年からは全国植樹祭への協力があり、派遣人数が少し増えております。派遣依頼は財団、県よりも実際は企業、団体からの派遣要請が多くなっています。

3 やどりき水源林における活動

面積は 529 ヘクタール、檜岳、雨山、鍋割山などに囲まれていまして、43%ほどが人工林、47%ほどが雑木林となっており、寄沢を中心とした水源林です。

やどりき水源林内での支援活動内容は、

- ・ 企業がお金を出して森林育成を援助するといった形の「水源林パートナー」
- ・ 水源林を巡って関心を持ってもらうための「森の案内人」
- ・ 平成 19 年からお子さん誕生の記念に木を寄付していただく「成長の森」
- ・ 水源林パートナーの方々と行事を催したり親睦を深めたりする「水源林の集い」
- ・ 檜岳植樹調査、希少植物の調査、水生生物の調査、稜線部の調査、生息動物の調査等
- ・ 成長の森の下草刈り、経路巡回等

また、自主活動では定形型ボランティアとして間伐等を中心とした整備等を行っています。

4 県内各地での活動

やどりき水源林内での活動よりも実際は箱根も含め、各地での活動の方が多いです。やどりき内では企業の活動支援が多かったのですが、他では団体等での活動の方が多くなります。また、炭酸ガス吸収量算定書発行、森に名前を付けることができる「森林再生パートナー」として現在は 26 社が活動しており、我々もサポート、安全管理等のお手伝いをしています。他にも森林探訪や神奈川水源林の森林づくりキャンペーン等で、横浜港や秦野たばこ祭り、川崎市民祭等にも参加しています。

5 まとめ

これからは市民ボランティアの活動団体がさらに必要になると考えています。各団体で情報交換をしながら、互いにレベルを上げていく必要であろうと考えています。

4 ディスカッションの概要

(1) 今後の後継者不足について。現状と展望

- ・里山の作業は3K＋重労働で、機械化したとはいえ素人には大変。現在は地元から出て行った方々に徐々に仲間に入って頂くとしている状況だが、先が見えない。
- ・会員では若い世代と言っても55歳、70代前後の方が一番多い。若い方に声をかけても継続してくてくれる方が少ない。
- ・コアなメンバーは60代半ばくらい。解決策とはならないが、大学生をインターンシップという形で来てもらおうと活動がいつもより活気がでて良くなる。あらゆる機会に若い世代に声をかけていくことも一つの方法であると思う。加えて、重労働になりがちで怪我も付き物であるプログラムにも問題がある。もう少し楽しめるプログラムに変えていくことも必要ではないか。

(2) 行政と協力協定のようなシステムを結ぶ上での過程、苦勞

- ・神奈川県で森林づくり課を単独で持っている自治体は秦野市だけであり、全国に先駆けて取組みをしていると思う。市民、NPOと行政と地権者の三者で協約を交わすというそれぞれにとって安心でメリットがあるシステムを作っていると思う。
- ・秦野市にはボランティア団体が多いが、非常に協力的でしっかりしているので心配もなく、今後お互いに里山の為に尽くしていきたいと考えている。特に「ふるさと里山整備事業」については、地権者等に説明会等で理解を得、協約を結んで進めている。市が主体になってというよりも、市民の皆さんと一緒にやっていきたい。

(3) かながわインストラクターの会の派遣

- ・県内ならどこへでも派遣する。箱根～川崎まで派遣しているが、トラストみどり財団へ申し込んでいただく形になっている。派遣料はいただいている。

(4) クヌギ、コナラの葉の現在の利用法、ヤマビル発生への工夫

- ・ある一部の団体では薪にして販売しているところもある。各団体では落ち葉掻きをしてヤマビル対策をしている。

(5) 機材を揃える際、継続的な活動に向けての資金繰り、

- ・すべて秦野市「ふれあい森づくり事業」からの補助金で運営している。栽培したシイタケ等は売買していないので売上金も無い。県からの補助金もあるので10年間で森林で使用する機材は殆ど揃えることが出来た。
- ・ほぼ民間からの助成金、ファンドによって資金繰りをしている。かつては県からも援助をいただいていたが、使いにくいので止めた。経済が確立しないと本当の意味での自立にはならないので、将来的に農産物等を独自産業化し製品化することや参加型農業で採れた作物を使ったレストランができるような形が理想だと思っているが、現在

は助成金頼みである。

<会場からの質問>

秦野市渋沢丘陵で尾根を全て削り、その土砂で谷を埋めて 20 ヘクタールの田園を作る計画があるが、そのまま認めてもいいのか。

- ・開発関係については、許可がおりれば森林づくり課としても止めることはできないので、残った里山等を保全再生という形で整備、維持管理に努力していくということだと思う。里山を守っていく努力は今後もしていきたいと思っている。

<会場からの質問>

行政としては市民と共に計画を立てる機会をどれくらい持っているのか。

- ・町づくりであれ、森の整備であれ、県が勝手に決めることは殆どない。市民も加わって行政と決める形の方が圧倒的に多いと思うが、まだ間々あるので、それについてはただ待つだけでなく、私たちがもっと積極的に声をあげていかなければならないと思っている。

<会場からの質問>

里山里地整備には若者の参加が大変必要になってくると思うが、若者同士でも価値観の相違があるので扱いが難しい。里地里山を継続して大事にできるような価値観を育てるためには早い段階が望ましいと思うが、学校教育等でも漏れているのではないかという不安がある。今後 10 年をどういった方に引き継ぐかという点でアドバイス等をいただけないか。

- ・小さい時から実践を伴った自然教育が大事だと感じている。当然、中学、高校、大学生、社会人になっても継続していかなければならない。また、本職を持っていても、自然に触れることが出来ると教えることも大事だと思っている。

◆ 全体講評（丹沢大山自然再生委員会 委員長 木平 勇吉）

- ・ 4 団体の報告から、非常によくやっておられると実感したが、問題になっている後継者について、伊勢原森林里山研究会の山口さんから学生インターンシップを一つの機会にと提案されていた。インターンシップには手間がかかり、根気よくやらないと成功しないが、大きな可能性があると思う。学生側にも働く、勉強する、調査する機会が必要なので、今後も考えていただければと思う。
- ・ 森林を整備していない方がよいことや、整備した方が悪くなったなど、森林整備とは何かという問題に常にぶち当たると思うが、山を扱う場合にはよく考えることが大切だと思う。
- ・ 「協働」には一般の方々と作業するというだけでなく、計画に参加することも含まれており、それが重要であると考えている。一般の方が計画に参加したらもっと面白い意見が出て、活動にも自主的に参加するようになるのではと感じた。

◆ これからの丹沢大山自然再生のためにできること（パネリストから）

- ・ 市民（ボランティア団体）、関係機関と一緒に秦野市の里山について考え、秦野らしさ、にぎわいのある里山になるように努力していきたい。市民による森づくり事業もPRし、若い方からお年寄りまで参加していただき、森林に対する意識を高めていただけたらと考えている。
- ・ 現状維持で進めていこうと考えている。市、県とタイアップしながら里山整備も少しずつ増やしていきたい。
- ・ 学生のインターンシップを受けているので、大学生にも色々と伝えていきたいと考えている。森林インストラクターの年齢も若くなってきており、技術磨き、伝える努力としていかなければならない。
- ・ ボランティア活動は別の見方もできている。自然を整備する、良くするのはもちろんだが、日本に大勢おられる六、七十代の方々にとって、ボランティア活動というのは生きがいであり、楽しい時間になるのではないかと考えている。楽しい時間を味わえる方がたくさん出られることを希望している。

5 まとめ

丹沢大山自然再生員会 県民事業専門部会 部会長 中村 道也

今回は丹沢の山の中から離れて、里山地域、人工林の手入れ等、以前は人間の生業があった部分で活動をする人たちの報告をお聞きいただくことが出来て、多少これまでとは違った目線で丹沢を考える事が出来たのではないかと考えています。

私たちが自然保護活動をしている時に、いくつか政策提言というものを出します。行政とやり取りをし、受け入れられたものには具体的な案を出すこととなりますが、そこから先は行政に引き取られることとなります。基本的に、行政は計画段階から市民を参加させません。例として水源環境税をあげますが、これは私たちが一般の税金の他に丹沢の森の為に出しているお金です。ですからこのお金に関する事業だけは、常に行政を注視し、意見を出し続けていくと受け入れられる場合もあります。色々な要望の形はありますが、行政に取り込まれないように自分たちの意見が極力通る形で活動していこうと考えています。

私どもは昭和46、7年に丹沢のゴミの持ち帰り運動を始めました。この年は丹沢を訪れる登山者が現在とは比べ物にならないくらい多く、登山者が食べたり飲んだりしたゴミがあちこちに散乱していました。そのゴミに対して民間で対応するにはお金も時間も無い為、登山者にゴミを持ち帰ってもらおうと秦野市や色々なところで呼びかけをすることにしましたが、これに最初に協力してくれたのが秦野市行政です。その他に小田急電鉄さん、神奈川中央交通さんにもご協力

いただき、官、民の協働という形になりました。秦野市さんはその後も様々な形で市だけでなく市内の団体への協力もして下さっています。また秦野市内にある団体から資金提供をいただき、'93年から神奈川県での最初の総合調査と、その調査を受けて野生動物の生息環境の保護を目的とした回廊（コリドー）も計画することができました。以上のことから秦野市さんには他と比べて環境に関心を持った市民性のある町という印象を持っています。

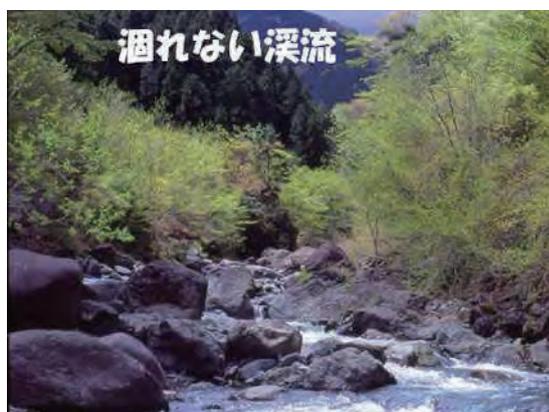
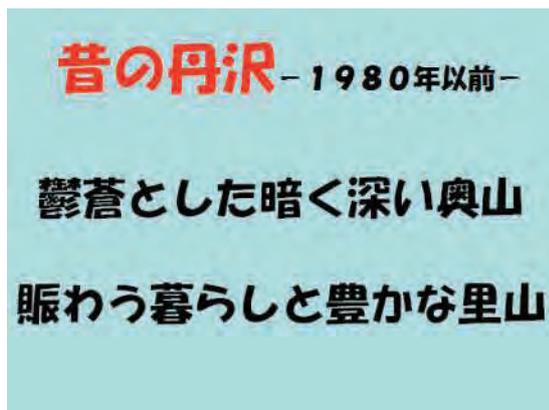
自然環境は繋がりを持っています。活動に参加した方々が山の中に目を向けてくれるようになったら、丹沢の自然再生にとって大きな力になると思います。獣害一つとっても、農家の方には大変なご苦勞ですが、山の中の動物たちにとっては食料がないから里へ下りて畑の物を食べる他はないという思いです。では、野生動物を残していくためにはどうしたらいいか、里地里山、山の中で活動する方々、行政を含め、みんなで考えていくきっかけになれば、里山の活動は非常に大切なものであると思っています。

後継者に関しても厳しい状況でしょうが、リタイア組が多い活動ほど先細りになります。若い方を引き入れる為にはまず、特に若い女性に来てもらうことです。魅力を感じるような内容を企画して参加してもらえば、男性も一緒に付いてきて、次に繋がっていくのではないかと思います。

6 発表内容<発表資料>

あいさつ 丹沢再生の取組みについて（県民協働による丹沢の保全）

丹沢大山自然再生委員会 委員長 木平 勇吉



今日の丹沢 - 1980年以降 -

フナ枯れ

シカの増えすぎ

雑踏する登山道

荒れる人工林

土壌の流出



自然再生事業の体制

- ・ 自然環境保全センター設立（2000年）
- ・ 県民参加による総合調査（2004年）
- ・ 自然再生委員会の設立（2006年）
- ・ 水源環境保全税の開始（2007年）



市民ボランティアの参加



登山者調査



- 話し合っ、目的を立て、計画を描く
- 結果をしらべ、記録して、振り返る
- 活動を楽しみ、続けて、実力をつける
- 成果を報告し、社会の信頼を高める

(1) 秦野市の里山保全 再生の取り組み

秦野市 環境産業部森林づくり課 課長補佐 関野 勉



秦野市



- ★昭和30年に市制施行
当時は、タバコ栽培に代表される人口約5万人の農業中心の町
- ★人口約170,000人
- ★面積 103.61 km²
(10,361ha)
- ★森林面積 55 km²
市の総面積の約53%
(5,452ha)
- ★県内唯一の盆地

里山保全再生の背景（秦野の特性）

- 1 丹沢の自然
丹沢はあらゆる資源の源
荒廃化の進行
- 2 豊かな森林が蓄える地下水
秦野盆地は天然の水がめ 総量は3億トン(箱根の芦ノ湖の約1.7倍)
水源涵養の源である里山の保全再生活動の重要性
- 3 農業と自然との関わり
タバコ生産終了による里山の荒廃化

丹沢の自然



荒廃化した丹沢の山林の様子

丹沢の自然



水源地の森林づくり事業の森林整備の様子

丹沢の自然



保全団体による里山整備活動

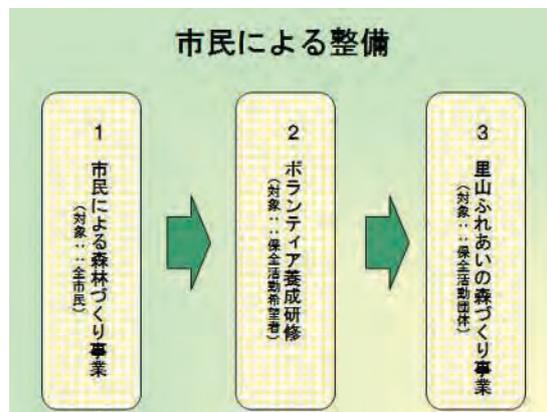
里山エリアの保全整備の取組み

里山エリアの主な整備手法

- 1 市による直接的な整備**
 - 【ふるさと里山整備事業】
 - 平成15年度～平成23年度で270haの整備
 - 年間30haの整備実績
 - 里山エリアの24%を整備済(270/1130ha)
- 2 市民による整備**
 - 【里山ふれあいの森づくり事業】
 - 35団体で43haの里山を整備
 - 年間3.7haの活動エリア拡大実績(平成15年度～平成23年度)
 - 里山エリアの4%を整備済(43/1130ha)

平成15年度～平成23年度で里山エリア全体の38%を整備
1130haの里山林(平成15年度～平成23年度末見込み)

既整備 120ha	市整備 270ha	市民整備 43ha (35団体実施中)	未整備 700ha
--------------	--------------	---------------------------	--------------



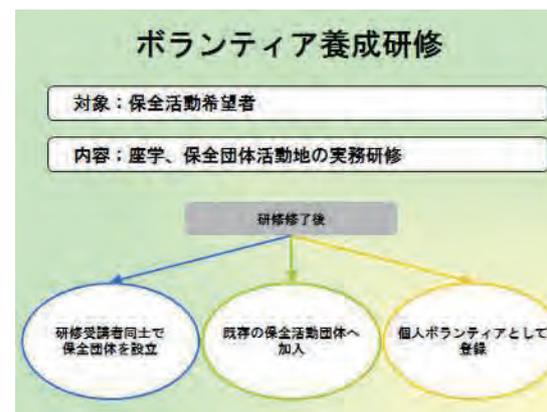
市民による森林づくり事業

市民の森林・里山の循環及び保全に対する理解を深めることを目的として、植樹・育樹・活樹の事業を実施。

対象：全市民

内容：秦野市植樹祭、育樹活動、秦野産材PR、森林浴事業等

左：秦野市植樹祭の様子
右：育樹活動の様子



里山ふれあいの森林づくり事業

対象：保全活動団体

内容：里山管理に対する事業費補助

団体数：35団体(平成23年度)

活動面積：43ha(里山エリア全体の4%)(平成23年度)





会員の構成

会員数：56名

男性会員：48名 女性会員：8名

地元会員：30名 市内会員：26名

市外の会員：10名



名古屋里山を守る会

森林・田畑の活動面積

里山

森林：4.62ha(個人山)

作業：間伐、古材、林道整備、堆肥作り、竹炭作り、タケノコ料理、シラタケ、オメコ

田畑

田畑：1.47ha(援助農業)

果実：柑橘類、栗、柿、イチジク、プラム

野菜：一般葉野菜

稲作：もち米は喜寿、普通米はキヌカリ



名古屋里山を守る会

竹林の活動面積

竹林：2.5a(個人)

作業：間引き、整備

利用：タケノコ料理、竹炭



名古屋里山を守る会

作業機材



名古屋里山を守る会

作業内容

林内の道路整備



里山の整備



名古屋里山を守る会

その他の活動

各種実技講習会

カマの講習会 刈払機の講習会 チェンソーの講習会

コナラ・ナラの種まき



名古屋里山を守る会

休耕田の活用

耕作面積:0.4ha
普通米:キヌヒコリ
もち米:喜寿



名古屋里山を守る会

雑木林の活用

毎年、3月に一般市民を募集し実施



ヒラタケ

ナメコ



名古屋里山を守る会

休耕田の整備

約38年間休耕していた田を復活しました。



約38年間休耕していたため、貴重な水生動植物が多数発見されました。



名古屋里山を守る会

水生動物の調査

コメント
この調査は2005年に開始、2006年7月から8月に実施したもので、調査対象は足巻魚、巻魚、野田魚、尾巻魚と巻魚、阿波魚は目録と調査による種別、尾巻魚は目録による種別である。名古屋里山で確認された動物種のリストを表に示した。その内訳は、尾巻魚107種、巻魚2種、阿波魚4種、尾巻魚4種であった。これらの中には神奈川県立生命の里、地球博物館調査、発行した県のレッドデータ種目種は、総計9種で、尾巻魚ではミルシヤンマとクワの2種、(いずれも県：高尾巻魚)、巻魚ではオトコトゾウの1種(調査者：池田忠雄13種、尾巻魚13種)、阿波魚のトビ(尾巻魚1種)、シロガキ(尾巻魚1種)、シロガキ(尾巻魚1種)も、調査種目種目種、尾巻魚のトビ(尾巻魚1種)、(いずれも県：高尾巻魚)である。調査種目は十分とはいえないが、調査の結果から、本調査地は多様な水生動物の生息する水生動物の生息地であり、神奈川県では減少傾向にある種や希少な種が数多く確認された。
水辺の水生動物と水生植物について、調査地の水生動物は (1) 湧水からの水輪、(2) 湧き出し、(3) 水田、(4) 水田に湧く水輪から構成されているが、それぞれ異なる水生動物が生息しており、例えば (1) ではオニヤンマのオナゴトシ、(2) ではゲンジボタルやオナゴトシ、(3) と (4) ではトンボの科の種がほとんど水生動物である。これらの調査に加えて、ヒコトビ調査によって湧き出しの水辺や水田の調査も実施された。結果として調査地は多様な水生動物の生息地であることが明らかになった。調査地は、大型のトンボ類などの水生動物の生息地、阿波魚の生息地の増加が期待される。ただし、ヒコトビ調査にあたっては、調査する動物の生息環境を調査しないよう注意すべきで、特にゲンジボタルの調査では調査地はできるだけ静かである必要がある。

東京農工大学短期大学部 環境緑地学科 竹内研二

名古屋里山を守る会

4号ビオトープ散策路の整備

『生き物の里』の指定を受けるため、周辺の山林を整備した。



名古屋里山を守る会

生き物の里に指定



名古屋里山を守る会



ハイキング道の整備



休憩場の山頂標識製作



機材の運搬



山頂標識の完成



念仏山由来の掲示板設置



炭焼き施設の製作



古材大谷石利用のピザ窯製作



名古屋里山を守る会

里山里地整備の今後の展望



- ・ 地域住民の参加
- ・ 共有林の整備
- ・ 盗掘防止
- ・ 鳥獣被害の防止

名古屋里山を守る会

里地里山活動に賛同される方に!

・ 秦野市が実施している『里山ふれあいの森づくり事業』は他県にはない素晴らしい補助金事業であります。

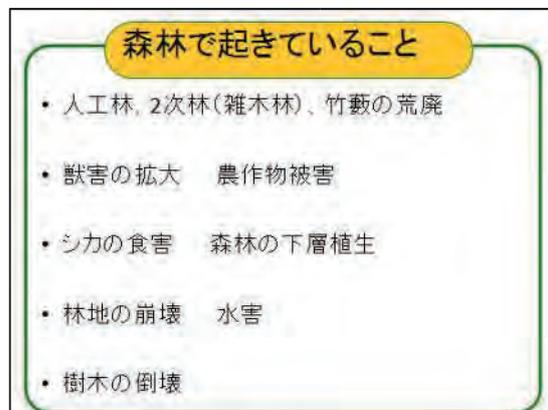
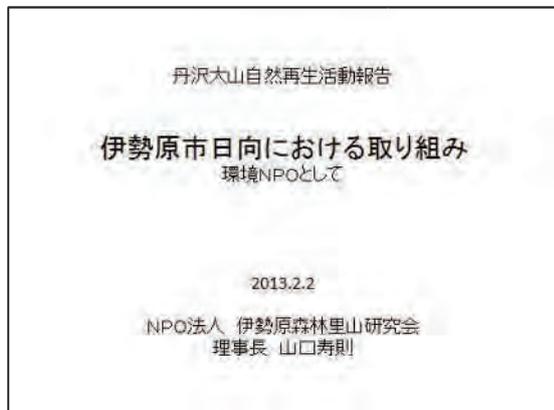
賛同される方は、まず近くの里地里山活動をしている会に入り、里地里山活動するための知識を得てはいかがでしょうか。

里地里山活動は、活い仕事OKよりもっと楽しいものです。つらさを克服すると素晴らしい里地里山活動が見えてきます。

名古屋里山を守る会

(3) 伊勢原森林里山研究会の取組み

NPO 法人伊勢原森林里山研究会 理事長 山口 寿則





畑・田んぼで起きていること

- シカによる食害
- イノシシによる食害 畑地および周辺の破壊
- サルによる食害
- クマによる食害、果樹の破壊(大山地区)
- 獣害、後継者不足による営農意欲の低下による耕作放棄地の拡大
- 耕作放棄地の荒廃



集落で起きていること

- 農林業従事者の減少、高齢化
- 核家族化
- コミュニティ崩壊の危機
- 地域文化継承の危機

課題解決に向けて

- ・ふるさとづくり
- ・パートナーシップ
- ・魅力再発見
- ・ひたむきな活動の継続

私たちの目指すもの

- ・ 荒廃する森林の再生
- ・ 生物多様性を担保した自然環境の創造
- ・ 里山(集落、田畑、水路、雑木林を中心とする2次林)の自然再生
- ・ 里山文化の再発見と保存
- ・ 失われた故郷の再生
- ・ 人間と野生動物の共生を探る
- ・ 持続可能な平和な暮らし







谷戸田オーナー
収穫祭
10時～13時
料金はなし！4歳まで
参加自由！入場無料
会場：日向の谷戸田（日向林道、淨徳庵寺手前）
雨天の場合 日向ふれあい学習センター

プログラム
収穫祭（けんぼーたて煮・稲刈りへの体験など）
講演会「寛平ハハ、チヂメの謎（けんぼーとチヂメのつながり）」
稲刈り体験（稲刈り機体験）
日向の伝統文化展示（スローライフのフリーマーケット）
オーナーさんへの感謝

主催：伊賀市農政課 NPO法人伊賀稲穂山研究家
協力：阿上高等学校 日本大学生物資源科学部ナレッジ
日向ふるさとづくり協議会有志

2011年度



耕作放棄地
大豆（地域固有種）
ソバの栽培



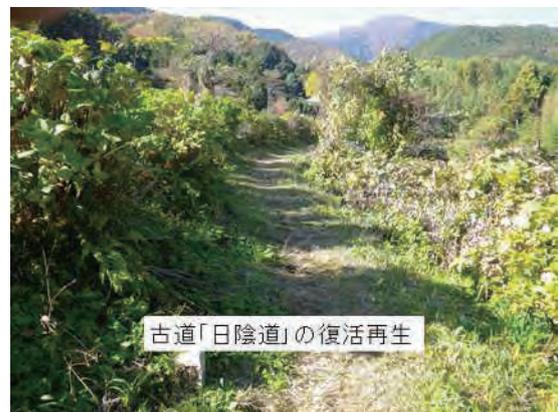
被災地復興支援活動
岩手県陸前高田市





今後の取り組み

- ・森林の保全再生
- ・野生動物との緊張的共生の模索
- ・遊休農地の作付け拡大
- ・地域文化の再生継承
- ・持続可能な地域経済活性化
- ・「結」など新たなコミュニティの創造
- ・都市住民と地域住民の交流

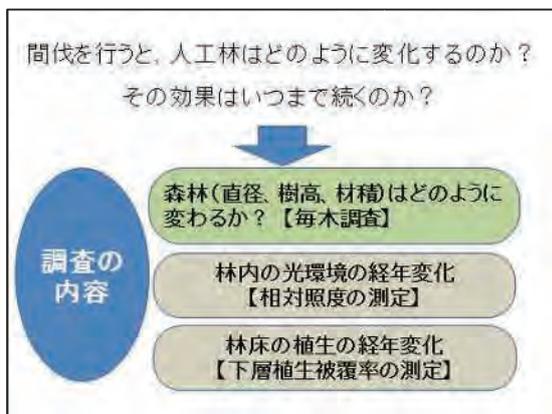


スギ人工林における間伐試験の報告
～光環境と下層植生の4年間の変化～

日本大学生物資源科学部
森林管理・住宅研究室 國原和夏、増谷利博

間伐の役割

- 木材生産にとって・・
年輪の安定した良質な材をつくる。
- 環境にとって・・
林内を明るくすると下層植生が繁茂し、
森林の水土保全機能や生物多様性保全機能が
高まる。



調査方法①プロット設定と毎木調査

スギ人工林の中に3つのプロットを設定。
※プロットの周囲には防鹿柵を設置。

山側

III (33%間伐) II (25%間伐) I (無間伐)

谷側

プロット内のすべてのスギの直径と樹高を計測。



調査方法②光環境調査

- ・周囲の影響を受けぬよう、プロットの内側20m×20mの範囲を調査。
- ・黄色の丸が調査地点
⇒5m間隔の格子点上
1.2mの高さに照度計を設置

林内の照度と林外の開けた場所の照度より、相対照度を求めた。

調査方法②光環境調査

- ・周囲の影響を受けぬよう、プロットの内側20m×20mの範囲を調査。
- ・黄色の丸が調査地点
⇒5m間隔の格子点上
1.2mの高さに照度計を設置

林内の照度と林外の開けた場所の照度より、相対照度を求めた。

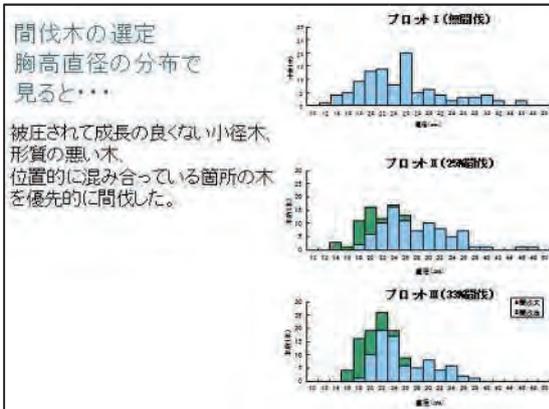
調査方法④

2008年 プロット設定、毎木調査
間伐前の光環境の調査
間伐後の光環境と下層植生の調査

2009年 間伐1年後の光環境と下層植生の調査

2010年 間伐2年後の光環境と下層植生の調査

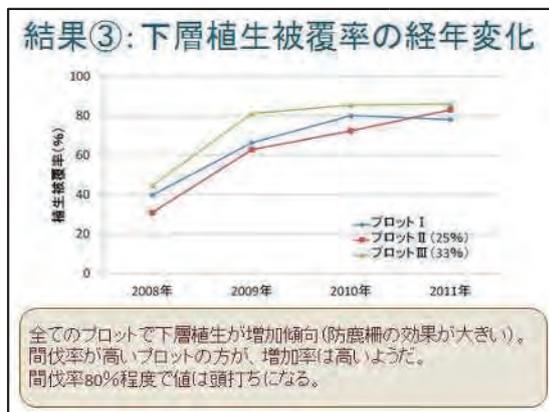
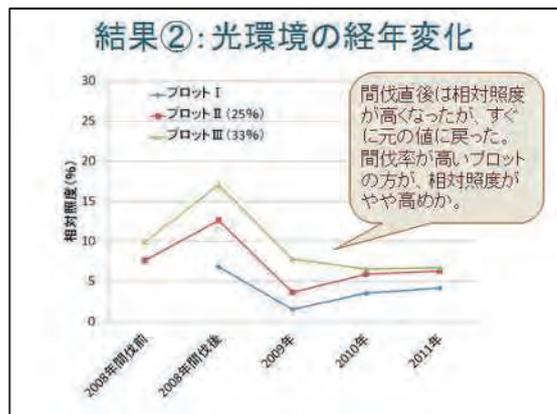
2011年 間伐3年後の光環境と下層植生の調査



結果①: 間伐前後の森林の変化

	I (無間伐)	II (25%)		III (33%)	
		間伐前	間伐後	間伐前	間伐後
立木密度 (本/ha)	1,167	1,267	956	1,322	878
平均直径 (cm)	25.4	25.7	27.8	23.7	25.6
平均樹高 (m)	20.1	21.3	21.7	21.8	22.3
材積(m ³ /ha)	633	724	629	656	510
材積間伐率 (%)	—	12.6		22.3	

間伐により、本数密度は低くなった。小径木を間伐したので、平均直径は増加した。



結果⑤:よく見られる下層植生(推移)

分類1	分類2	科/属	下層植生	2008年	2009年	2010年	2011年
草本	イヌササ科	子ナミササ	多い	0	0	0	0
		アオミス		0	0	0	0
		コアカサ	多い群落	0	0	0	0
		オオナムシグサ		0	0	0	0
		テンニンソウ		0	0	0	0
		ムヤブササ			0	0	0
		ナキリスゲ			0	0	0
		ドクダミ				0	0
		ヤブガラシ		0	0	0	0
		マンカゼソウ				0	0
		オオバノノボソウ	多い	0	0	0	0
		イノサソウ		0	0	0	0
		ミヤマコギリソウ				0	0
		ヘニシダ		0	0	0	0
ゼンマイ		0	0	0	0		
木本	イヌササ科	イイギリ			0	0	
		エンコウカエデ			0	0	
		ヤマグルウ	多い		0	0	
		エノキ			0	0	
		タラノキ			0	0	
		ニリトコ			0	0	
		ミヤマウツロイチゴ			0	0	
		ツリタモ	多い	0	0	0	
		ヤマブドウ		0	0	0	
		スズク		0	0	0	



4年間のまとめ

- 本数間伐率25%、33%程度の間伐効果は、1~2年程度でなくなる。
⇒ 小径木を中心に間伐するなら、間伐率をもう少し上げてよいかも。
- 下層植生の維持には、間伐だけでなく、防鹿柵の設置も不可欠。
- 光環境の改善により、下層植生の増加率が高まる。
- 下層植生の被覆率は、4年後には80%程度で頭打ちになるが、木本を中心に種類が増える。

調査終了後について

- ・ スギの巨木化を目指す
- ・ 広葉樹の植樹を予定
- ・ 複層林化を目指す
- ・ 更なる間伐が必要
- ・ どの時点で防鹿柵を撤去すべきか

(4) NPO 法人かながわ森林インストラクターの会の活動について

NPO 法人かながわ森林インストラクターの会 理事長 久保 重明

(丹沢大山自然再生活動報告会 2013. 2. 2)

—かながわ森林インストラクターの会の活動について—

久保 重明
NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

話の流れ

1. かながわ森林インストラクターの会の生い立ち
2. かながわ森林インストラクターの活動実績
3. やどりき水源林での活動
4. 県内各地での活動

1. かながわ森林インストラクターの会の生い立ち

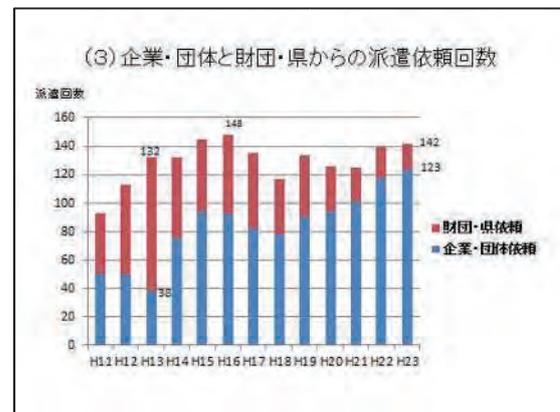
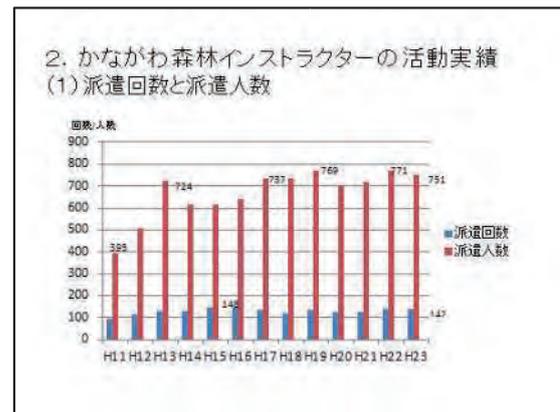
平成2年4月 神奈川県が森林インストラクターの養成を始める。

平成4年 県知事認定の1期生誕生。ほぼ同時に会が設立される。

平成7年 県において丹沢川原森林インストラクター検討委員会が立ち上げられ、そのあり方について検討された。その結果、かながわ森林インストラクターの会は、①森林・林業専門家や組織、②市町村・学校・企業・団体等、③委員制団と連携し、ネットワークで県民参加による森林づくりを推進、啓蒙することを目的とした。

平成9年(1996)～12年 目的に沿った部門(森林づくり部会、自然観察部会、森林文化部会、普及啓蒙部会)を設け活動した。

平成13年(2001)～現在 事務局と広報部門、そして実際に活動に關わっている上記の4部門の他に森林遊歩部会とやどりき事業部会として会員の技術レベル向上のための技術委員会、作業の安全を担保するための安全管理委員会として管理事業の円滑を担う事業企画委員会がある。平成20年(2008) 特定非営利活動法人となる。



3. やどりき水源林での活動

(1) やどりき水源林はどこに

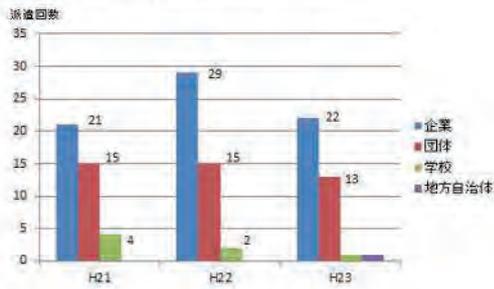
自然環境保全センターのパンフレットより



(2) やどりき水源林でのさまざまな活動

No.	活動名	依頼先・依頼先	内容	インストの概
1	企業・団体のボランティア活動の支援 小学校の総合学習の支援	企業および団体 小学校	日時と内容は企業・団体からの要望による 森林の生垣木や木材の利用	参加者数により変わる
2	森の案内人活動	かながわトラストやどりき支部	4～11月土日の10時と12時から案内	2名×8回/月
3	成長の森見学会の案内	かながわトラストやどりき支部	原則年1回2日	12～15名/日
4	水源地の森の	県民との協働による森づくり実行委員会	年1回自然観察、トレッキングなど	30～35名
5	自主活動 定額型ボランティア活動	県自然環境保全センター	関係作業、原則3回/週活動	3名以上/回
	森での樹木調査 樹少樹多調査 水生生物調査 後継樹の調査 土壌動物の調査と保護(ムササビの巣箱設置)	自主活動		有希 無 無 無
6	成長の森の下里川、若路遊歩	松田町森林組合	19年度以降の成長の森の下里川、若路遊歩	2名/回、4回/月

1) やどりきでの派遣要請先別の回数



(3) やどりき水源林への参加企業・団体(水源林パートナー)

(H23. 5. 1現在)

パートナーの名称	就喜の締結日	活動面積	参加協力の内容
1 キリンビール(株)	H11.1.12	1.23 ha	園舎と社員による森林活動(5年間)
2 伊藤忠エネクス(株)	H18.8.1	0.4 ha	社員による森林活動(5年間)
3 (株)荏原製作所	H19.6.1	0.29 ha	社員による森林活動(5年間)
4 (株)半導体エネルギー研究所	H19.8.1	0.32 ha	社員による森林活動(5年間)
5 鶴岡八幡宮権の会	H20.1.31	0.24 ha	会員による森林活動(5年間)
6 横浜トヨペット労働組合	H20.2.1	0.27 ha	組合員による森林活動(5年間)
7 日立電子サービス(株)	H20.7.1	0.21 ha	社員による森林活動(5年間)
8 日揮(株)	H20.8.1	0.22 ha	社員による森林活動(5年間)
9 三菱重工(株)	H21.2.1	0.28 ha	社員による森林活動(5年間)

(4) さまざまな活動

1) 企業・団体のボランティア活動支援



親子自然観察会



間伐指導 お父さんが手本を!

(4) さまざまな活動

2) 小学校の総合学習の支援



紙芝居で森の大切さの説明



実験を通して森林の保水能力の説明

(4)さまざまな活動
③森の案内人活動



案内板を使ってコースの説明



コースを回り森林や動植物について説明

(4)さまざまな活動
③森の案内人活動、成長の森見学会の案内(コースおよび位置)

豊かな森は雨水を地中に貯え、ゆっくりと流す働きをします。「緑のダム」とも呼ばれています。

やどりき水源林

やどりき水源林はどんなところ？

約127haの広がりがあり、樹々の根が土をしっかりと握りこみ、雨水を地中に貯え、ゆっくりと流す働きをします。

本道の森を歩きながら自然を満喫しながら、大切な水を大切にしましょう。

【見どころ】

自然と歴史の物語「やどりき」の森内各地の自然の歴史が記された案内板です。

また、やどりき水源林の森内各地の自然の歴史が記された案内板です。

【コース】

やどりき水源林の森内各地の自然の歴史が記された案内板です。

(4)さまざまな活動
4)成長の森見学会の案内



平成19年度の成長の森へ



ボードにわが子の名前をみつけて

(4)さまざまな活動
水源林の集い



参加者の植樹作業の指導風景



作業後の昼食、広場は多くの出店とアトラクションでにぎわう

(4)さまざまな活動
6)自主活動 ①定着型ボランティア活動

やどりきに登録している定着型ボランティア

- ① (財)かながわトラストみどり財団
- ② やどりき水産づくり21
- ③ NPO法人かながわ森林インストラクターの会-森林部会
- ④ (社)青年海外協力協会
- ⑤ NPO法人みろく山の会
- ⑥ NPO法人地球緑化センター



(4)さまざまな活動
6)自主活動 定着型ボランティア活動作業風景



伐削作業中



伐倒木の枝おろしと玉切り作業

(4) さまざまな活動

⑥ 自主活動

② やどりき沢での水生生物調査、稜線部の調査



水生生物調査



稜線部の調査(両山山南村近でのシカの食害)

(4) さまざまな活動

⑥ 自主活動

③ 生息動物調査と保護(ムササビの巣箱設置)



杉の洞から顔を出したムササビ

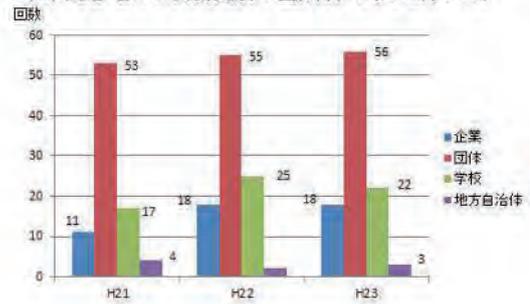


ムササビの巣箱設置作業

(4) 派遣回数(やどりきと県内各地)



2) 県内各地での要請先別の回数(やどりきを除いた)



4. 県内各地での活動

(1) どんどこから派遣依頼があるのか(平成21~23年)

区分	派遣依頼先
企業	森林再生パートナーの参加協力企業 独自でイベント企画・実施する企業
各種団体	トラストみどり財団、緑地管理運営協議会、公園緑地協会、 森林組合、JA森林づくり実行委員会、社会福祉協議会、法 人会連合会、自治労関係、水源保全関連協会など
学校	小学校：横浜(13)、相模原市(6)、川崎市(4)、厚木市 (3)、鎌沢市(1) 中学校：茅ヶ崎市(3)、横浜市(1) 高校：横浜市(2) 大学：川崎市(1)
地方公共団体	市役所(3)、区役所(1)

4. 県内各地での活動(平成21~23年活動場所と内容)

1. 間伐・伐打ち、下草刈り、雑草、自然観察など ()内の数字は活動回数を示す
県立21世紀の森(36)、豊川ふれあいの村(19)、小田原いこいの森(10)、宮ヶ瀬湖(10)、妻
野やびつ崎(7)、相模原市津久井郷長竹(5)、山北町世帯パートナー林(5)
南足柄天倉沢(4)、相模原市ふじの森(4)、座間の新沢公園、南足柄丸太の森、
2. 講話など
小学校(計16校)：厚木市(3校)、横浜(4校)、川崎市(2校)、相模原市、小田原市、横浜、
箱根町、大塚町
ケアプラザ：小昔ヶ谷ケアプラザ
地区センター：戸塚地区センター、明治市民センター(横浜市)
森林組合：森林組合
3. まちづくり活動(15年度)
妻野のたばこ祭り、横浜市臨港記念祭、川崎市民祭り
4. クラウド展示(イベント当日のみ)
小田原マリン、高津市民会館、横浜赤レンガ館イベント広場、辻堂モールフォルド
5. クラウド制作指導・手伝い
妻野市保健福祉センター、川崎緑地センター
6. 森林文化講演会(1回/年)

(3) 森林再生 パートナー

平成21年3月からスタート。水原林
パートナー制度をさらに拡充した制度
です。

制度の仕組み

- 支援・協力の方法(2つから選択)
- ①県が行う森林整備への協力
- ②造林事業者への直接支援
- ③について
- ・県が行う森林整備等の費用を企
業が負担(寄付)
- ・指定された森林に企業名を刻し
工費を、植樹の設置が可能
- ・県が森林づくりボランティア活動
など、企業のCSR活動の場を提
供、**株主ネット**
- ・県が企業等に支援頂いた森林
整備による産出CO2削減量算定
を進め発行
- ④について(①②③のいずれか)
- ・県は、企業と造林事業者(造林担
当)をコーディネートする。

№.	パートナーの名称	№.	パートナー事業
1	株式会社 東急の森	14	株式会社新野建設 社員保養会 樹木の森
2	アサヒビール㈱ アサヒビールの森	15	カナダ製菓㈱ カナダの森
3	通商神楽川 通商神楽川の森	16	株式会社(株)天田水産 株式会社 株式会社 天田水産 の森
4	東武東上線二子駅	17	協賛カイテック㈱ 青野カイ テックの森
5	熊鷹野リゾート新築地 熊鷹野 リゾート新築地の森林	18	三浦建設㈱ 宇野建設 会 及び 宇野建設 Y&Dの森
6	(株)神楽川東武東上線 東上線の森	19	神楽川トヨタ自動車㈱
7	三菱電機㈱ 三菱電機キッズの森	20	神カナル・カナルの森
8	JX日産日本エレクトロニクス㈱	21	住友スリーエム㈱
9	HSBC㈱ HSBC傘下控株 シイクルの森	22	日本石油建設㈱
10	富士通エフアイピー㈱ 富士通エフアイピーの森	23	JAグループ神楽川
11	株式会社グループ A&D Green	24	三菱電機㈱
12	株式会社 野村建設の森	25	キリンビバレッジ㈱
13	株式会社 エレック ニックス㈱	26	株式会社 ロイヤル

(平成23年5月1日現在)

(4) やどりき以外の県内各地でのさまざまな活動 団体・企業のボランティア活動の支援



下草刈り作業のデモンストレーション



植樹指導風景

(4) さまざまな活動 間伐 / 森林探訪(自然観察会)



間伐指導風景



自然観察風景

最近8年間の丹沢およびその周辺での森林探訪の実施状況

年度	回	実施日	場所	参加者/案内/関係者	説明テーマ
H15	1	2003/6/25	やどりき水原林	33人/5名	やどりき水原林の森について
	2	2004/5/30	やどりき水原林	35/54/54名	やどりき水原林を案内
	3	2004/6/26	妻丹沢 鳥居の森	58/101/120名	森林の働き、樹木の成長とこ からか?
H17	4	2005/6/5	伊勢原 雲峰	33/103/103名	里山の役割について (水原林と水原林)
	5	2005/10/15	やどりき水原林	59/120/127名	水原林の森づくりについて
H18	6	2005/11/23	失書谷・21世紀の森	92/120/181名	水原林の森づくりについて
	7	2006/6/4	栗山白山	38/120/186名	森林の働き、役割、整備に ついて
H19	8	2007/11/23	妻丹沢林道	59/54/64名	林道、水原の森づくり、森林 整備
H20	9	2008/5/17	やどりき水原林	23/20/50名	やどりきの歴史、水原林の案内
	10	2009/2/1	日向家前	128/154/154名	森林の役割、水原林、
H21	11	2010/4/24	三輪山	86/114/114名	水原林の状況、手入れの方法
	12	2011/9/25	失書谷	56/92/100名	水原林を案内、さまざまな森林の 姿について
H22	13	2011/11/13	弘法山	75/101/100名	水の行方、茶畑の歴史、自然

(4) さまざまな活動 キャンペーン活動



街頭キャンペーンでの呼び込み風景



街頭での低炭素風景

(4) さまざまな活動 自主活動 森林文化講演会

平成21年11月29日

講師: 只木良也氏(国民森林会
議長 名大名誉教授)

「豊かな生態系と地域の宝」

平成22年11月7日

講師: 濱野潤泰氏(東京農大教
授)

「社畜(鎮守の森)と企業の
森の共通性と森のすがた」

平成23年11月27日

講師: 岩井吉彌氏(林業家、元
京大教授)

「人と森のかかわり一日の比
較」



森林文化講演会での講演風景
(桜葉村大学PFCプラネット館前バス)

おわりに
丹沢大山自然再生には、これからさらに市民ボランティア団体の活動が必要であり、各団体と情報を交換しながらお互いのレベルを上げ、緑の保全・育成に尽くして行きたいと考えております。

この講演で使用しました活動実績(写真)がながわトラストより提供、そして写真は井出恒夫総務部長様からご提供頂きました。厚く御礼申し上げます。

おわりに
丹沢大山自然再生には、これからさらに市民ボランティア団体の活動が必要であり、各団体と情報を交換しながらお互いのレベルを上げ、緑の保全・育成に尽くして行きたいと考えております。

この講演で使用しました活動実績(写真)がながわトラストより提供、そして写真は井出恒夫総務部長様からご提供頂きました。厚く御礼申し上げます。

5 まとめ

丹沢大山自然再生員会 県民事業専門部会 部会長 中村 道也

写真と口頭による説明のため発表資料なし

- 7 配付資料
(1) プログラム

～人も自然もいきいき丹沢～

丹沢大山自然再生活動報告会



25年 2月 2日(土) 13:30～16:30

- 会 場 秦野市立本町公民館 大会議室
主 催 丹沢大山自然再生委員会
共 催 神奈川県自然環境保全センター



(2) ポスター・チラシ

丹沢大山自然再生活動報告会

～人も自然もいきいき丹沢～

日 時／平成 25 年 2 月 2 日(土) 13:30～16:30

場 所／秦野市立本町公民館 大会議室 (秦野市入船町 12-2)
(お車でお越しの方は隣接する大型店舗の駐車場をご利用ください)

定 員／150 名

参加費／無料

主 催／丹沢大山自然再生委員会・神奈川県自然環境保全センター

「地域主体の取組み」をテーマとして、市町村や関連する団体の活動、研究成果など、丹沢大山の自然再生に向けた様々な主体の取組みを報告し、今後の活動展開や団体間の連携・協働などについて意見交換を行います！

プログラム (予定)

I 開会あいさつ

II 活動発表

- ・ 秦野市 環境産業部森林づくり課
- ・ 名古木里山を守る会
- ・ NPO 法人伊勢原森林里山研究会
- ・ NPO 法人かながわ森林インストラクターの会

III ディスカッション

IV まとめ

V 閉会



〔アクセス〕 秦野駅より徒歩 15 分



申込み／ホームページ又は FAX にて、1 月 29 日 (火) までにお申込み下さい

ホームページ申込みフォーム <http://www.tanzawasaisei.jp/>

FAX 046-248-0737 (行事名・住所・氏名・電話番号・FAX・同行者を明記)

問合せ／丹沢大山自然再生委員会事務局(自然環境保全センター自然再生企画課内)

電話 046-248-0323(内線 298) Email info@tanzawasaisei.jp

